

# 片頭痛の新薬。 「CGRPモノクローナル抗体」



西村内科脳神経外科病院  
山川 孝 先生

若い女性に多い「片頭痛」は、発作性の激しい頭痛を繰り返し、日常生活に支障をきたしてしまふほど、つらい症状が起こります。その「片頭痛」に新たな治療薬の開発が進み、いま注目されています。

山川 発作時は拍動性の頭痛のため、学業や仕事も一時できなくなり、吐き気・嘔吐のため食事や睡眠も困難になります。発作は数日でおさまりますが、月に数回も片頭痛の発作を繰り返す方もいて、患者さんの生活の質を大きく低下させます。

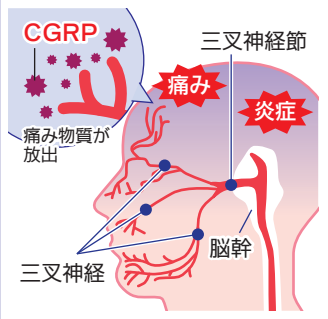
「分子標的薬」の技術による新薬

原因物質が判明したことでどんな治療が？

山川 このCGRPの働きをブロックする、「CGRPモノクローナル抗体製剤」が開発されました。これは原因物質に対してピンポイントに狙い撃ちする分子標的薬とも呼ばれ、いまや抗がん剤など他の分野でも目覚ましい成果を遂げており、ほかに、片頭痛予防の内服薬等の開発も進んでいて、ますます期待が高まっています。

山川 片頭痛の発生メカニズムは未だに解明されていませんが、痛みを感じる脳の「三叉神経」が関係していると考えられてきました。近年この三叉神経の末端からCGRP（カツシトニン遺伝関連ペプチド）と呼ばれる物質が放出され、このCGRPが片頭痛を起こす原因物質であることが証明されました(図1)。

【図1】三叉神経とCGRPによる頭痛発生の仕組み



この新薬は今年4月から保険適用となりましたが、デメリットとしては高額ということが挙げられます。また、月1回の通院も必要です。まずは既存の片頭痛治療をしっかり行い、それでも頭痛で悩まれている方に、費用対効果を見極めて投与しなければなりません。

山川 発作時の痛みには通常の痛み止めは無効で、即効性のあるトリプタンが頓服薬として使われますが、それでも片頭痛がおさまるまで頭痛に耐えなければなりません。また心臓疾患がある方には使えません、少数ですがトリプタンが無効な方もいます。

山川 片頭痛の発生メカニズムは未だに解明されていませんが、痛みを感じる脳の「三叉神経」が関係していると考えられてきました。近年この三叉神経の末端からCGRP（カツシトニン遺伝関連ペプチド）と呼ばれる物質が放出され、このCGRPが片頭痛を起こす原因物質であることが証明されました(図1)。

山川 片頭痛の発生メカニズムは未だに解明されていませんが、痛みを感じる脳の「三叉神経」が関係していると考えられてきました。近年この三叉神経の末端からCGRP（カツシトニン遺伝関連ペプチド）と呼ばれる物質が放出され、このCGRPが片頭痛を起こす原因物質であることが証明されました(図1)。